

令和6年度第3回芽室町総合計画審議会専門部会（Aグループ） 議事録

令和6年8月7日（水）18:30～20:50

芽室町役場 2階会議室7・8

■出席委員（9名）

飯島委員、梅津委員、大塚委員、佐藤委員、嶋野委員、田村委員、西村委員、平谷委員、廣瀬委員

■欠席委員（2名）

蘆田委員、阿部委員

■説明員

高橋水道課長、次田水道課長補佐兼下水道工務係長、玉村水道工務係長、松久消防署長、剣持総務課長補佐兼行政経営係長、橋本環境土木課長、久保田生活環境係長、松田住民税務課長、佐藤都市経営課長補佐兼都市経営係長、山田都市経営係主査、西田魅力創造課長、有澤政策推進課長、日下政策推進課参事

■事務局

大石政策調整係長、佐藤

■1 開会及び挨拶

大石政策調整係長

定刻となりましたので、只今から、令和6年度第3回総合計画審議会専門部会を開会します。欠席の御連絡を、蘆田委員、阿部委員からいただいております。

グループ長

お忙しいところ第3回専門部会にお集まりいただきありがとうございます。本日はグループワークではなく挙手制にて5つの施策の評価を行う。よろしく願います。

■2（1）調査事項 2024年度施策マネジメントシートについて<資料1>

◎4-3-3 上下水道の整備

事務局

担当課評価、経営戦略会議評価について説明。

グループ長

事前質問をいただいております、本日配付した資料に記載がある。読み上げることはしない

が、追加の質問やその他の質問があれば伺う。

委員

配管の交換時期についてどのような計画で行われているのか。

また、災害時に配管が破裂するニュースがある。老朽化に伴う交換の際、耐久性の高い新しい素材に変えているのか。

玉村水道工務係長

水道管の敷設替えは耐久性の低い石綿管、平成4年度から令和5年度まで間、33km実施した。今後の計画としては、1年300メートルずつ実施していく。

管種は石綿管から耐震管とも言われる鋼鉄管に変更して設置している。過去にも石綿管から铸铁管に敷設替えする等、工事タイミングで適切な素材を使っている。

委員

合併浄化槽の制度変更について、報道があったと思うが、芽室町においても影響はあるのか。

次田水道課長補佐兼下水道工務係長

制度変更は把握していない。

グループ長

評価に移る。担当課評価C、経営戦略会議評価Cについて妥当であると思うか。

(全委員妥当)

妥当とする理由を伺いたい。

委員

水道は町民にとって必要不可欠なライフラインであり、継続して維持している。

委員

計画的に整備更新されている。

委員

取組内容は生活環境、地域の安全安心を遵守した内容である。

グループ長

今後の取組に対する意見はあるか。

委員

新嵐山スカイパーク内にあるフォレストハウスのトイレについて、排水時水圧が低い改善することはできないか。現状では水が入ったペットボトルが用意されており、トイレの後にペットボトルで水を流すことになっているが、子どもは困難だと感じた。

高橋水道課長

新嵐山スカイパーク内の施設管理となるため直接は魅力創造課が担当となるが、改修の中で改善していくことになると思う。魅力創造課にも共有させていただく。

委員

資料1の54ページ、5. 施策の課題認識欄の取組②において、「わかりやすい上下水道経営（経営戦略・経営比較分析表等）」の情報提供を実施していく。」と記載があるが、他にも芽室町の水が美味しいということも併せて発信してほしい。

高橋水道課長

ホームページに水質検査の結果を公表しており、美味しいという書き方はしていないが検査基準に合致している状況。書き方は他の市町村を参考にしながら考えていきたい。また、芽室町の水道は水道企業団から受水した水と町内の井戸水をブレンドして供給している。水の硬度が美味しさに直結するかは難しいところではあるが、一般的には硬水過ぎると飲みづらい、軟水過ぎるとコクがないと言われている。北海道は軟水であり、そのような数値も公表していきたい。

委員

この施策において今後の課題はどのように捉えているか。

高橋水道課長

水道施設の改築、更新に大きく費用がかかる。上水道施設は耐震化が済んでいるが、今後下水道施設の耐震化を課題と捉えている。

◎ 4 - 1 - 2 消防・救急の充実

事務局

担当課評価、経営戦略会議評価について説明。

グループ長

事前質問は別紙のとおり。追加の質問やその他の質問があれば伺う。

委員

自主防災組織の目標数を伺いたい。

剣持総務課長補佐兼行政経営係長

後日回答とさせていただきます。

※後日担当者回答

明確な目標数はないが、引き続き自主防災組織設立について町内会に呼びかけや支援をさせていただきます。

委員

住宅用火災報知器について、75歳以上の高齢者を対象としているのはなぜか。

松久消防署長

75歳以上で1500世帯以上あり、消防団及び消防署で訪問しているが、訪問しきれない部分もある。裾野を広げても実際動けないことにもなることから、75歳以上とした。また、一般的に高齢者は65歳以上であるものの、今の65歳は昔と比較してまだまだ元気であると考えている。

委員

防災訓練について、町内会や町内会連合会に対して啓発はしているか。

松久消防署長

今まで実施できていない。今年は9月1日、8日、15日の防災訓練を行うこととしているが、次年度以降はステップアップしていきたい。

グループ長

評価に移る。担当課評価C、経営戦略会議評価Cについて妥当であると思うか。

(妥当：8人、妥当でない：D評価1人)

妥当でない(D評価)とした理由を伺いたい。

委員

成果指標を上げるための取組が読み取れない。評価の施策評価との整合性を考えてD評価とした。

グループ長

他の委員で妥当とした理由を伺いたい。

委員

他部署との連携を取りながら進めている。視点が変わったことで前進したと判断した。

委員

政策名である「安全・安心に暮らせる生活環境づくり」に対して実施できていることから前進と判断した。

グループ長

担当課として意見はあるか。

松久消防署長

家庭用火災報知器について広報してきたが、啓発効果が薄いことから見直しを検討している。また、独居老人の対応としては、住民税務課、高齢者支援課、健康福祉課と連携して進めている。コロナで消防力を落とさないような体制づくりをしていたが、活動としては鈍くなっていたところがあった。昨年にコロナが5類へ移行したことから、今後は成果指標に反映される活動が可能となる。

委員

コロナを理由とすると全課が同じ状況である。個人情報も住民の命・財産を守るために各課で情報共有してほしい。

グループ長

今後の取組に対する意見はあるか。

委員

子どもたちに見せるイベントとして、消防車両の展示や消防体験等の内容で開催してはどうか。子どもたちに消防車で水を撒くという経験があれば、将来消防団員になりたいという意識になるかもしれない。他課と連携しながら進めてほしい。

委員

消防団員の採用はどのように行われているのか。

松久消防署長

現職からの推薦があれば面接を実施する。定年退団もあるため入れ替わりがある。採用は令和元年から令和4年の中で4人である。定員80名のうち、現在75名。これまでは自営業の方がその子どもに引き継がれていたが、なり手がいない状況。

委員

消防組織が広域化になったが、それ以前と比べて職員の働き方は変わったか。

松久消防署長

広域化となり茅室消防署には10名の増員があった。活動もしやすく休暇も取りやすくなった。

委員

非番を除いて1日の中で動ける人数は何人いるのか。

松久消防署長

通常は日勤4人と災害対応8人で対応する。2台の救急車を稼働させるために最低でも6人は確保している。

委員

住宅用火災警報器の設置について、対象を75歳以上という年齢で分けるのではなく、築年数が古いエリアを中心に巡回した方が効果があるのではないか。

また、公営住宅など警報器を設置した後、電池が切れているかどうかの確認はどのように対応しているのか。

松久消防署長

参考にさせていただく。

警報器は10年が期限としており、確認は役場担当が行っている。

委員

平原祭りで消防車の展示があった。

松久消防署長

今年は夏フェスと華音で消防団が子どもを対象に体験の場を設けた。幼稚園、保育所にも出向しているところ。広報活動も含めて進めていきたい。

委員

上美生地区で防災訓練の実施や中学校で職場体験の実施など非常にありがたいと思う。コロナも5類に移行し、消防も活動しやすくなってきたのではと思う。引き続きお願いしたい。

◎5-2-3 親切・便利な行政サービスの推進

事務局

担当課評価、経営戦略会議評価について説明。

グループ長

事前質問は別紙のとおり。追加の質問やその他の質問があれば伺う。

委員

成果指標①、②共に令和8年度目標値が80%以上としているが、どのように設定されたのか。

剣持総務課長補佐兼行政経営係長

町民満足度が80%以上であれば高いと認識しており、継続して維持していくことを目標としている。

委員

DXの取組が始まり、今はまだ影響はないかと思うが、今後は影響が出てくると思う。

委員

DXにより農業関係の申請が楽になったが、職員の仕事も楽になっているのか。

日下政策推進課参事

DXについて令和5年度から専属となる職員を配置して進めているところ。まずは役場内の全係にヒアリングを行って、今行っている仕事の改善点を整理し、改善にはデジタルが必要かどうかを確認した。目的は、業務の効率化と町民の利便性の向上である。申請事務も時間や場所の制約がない手続きが増えてきた。何度も同じ情報を書かなくても良くなったことから、評判は良い。

委員

高齢者はデジタルが不慣れな方が多いが、デジタルの導入により町民と職員お互いの苦労が減っていると思う。ぜひ続けていただきたい。

日下政策推進課参事

高齢者だけに限らないが、デジタルが不慣れである方には伴走支援の考え方で対応にあたりたい。

委員

DXにより役場職員の人数が減るのではないかと危惧している。

日下政策推進課参事

人口減少社会、少子高齢化もあいまって人も少なくなり、経済も縮小していくことが懸念される。しかし、行政サービスが縮小することはないと考えているため、デジタルを戦略的に活用して仕事を進められるようにしたい。民間はできるけど役場ではできないことがまだまだある。デジタル、アナログを選択できる形で行政サービスを提供していきたい。世の中のスピード感が早いことから、暮らしに直結する部分はしっかり対応したい。

グループ長

評価に移る。担当課評価C、経営戦略会議評価Cについて妥当であると思うか。

(全委員妥当)

妥当とする理由を伺いたい。

委員

町民視点で進めている。職員が生き生きと働いているように感じる。

委員

職員の対応が非常に親切、丁寧である。

グループ長

今後の取組に対する意見はあるか。

委員

成果指標も高水準で維持している。これからも町民の声に耳を傾けてほしい。DXの効果を図るためにも、手続きの後に簡単なアンケートをしてはどうか。

委員

自動交付機が非常に便利であるが、近隣市ではコンビニで住民票を取得できる。芽室町で実施の予定はあるか。

松田住民税務課長

コンビニ交付は令和7年1月に導入予定であり、住民票、印鑑証明書、税証明など交付可能となる予定。

◎ 5 - 1 - 2 住民自治の実現と地域の活力の維持

事務局

担当課評価、経営戦略会議評価について説明。

グループ長

事前質問は別紙のとおり。追加の質問やその他の質問があれば伺う。

委員

地域集会施設再整備について、進捗が見えてこない理由を伺いたい。

佐藤都市経営課長補佐兼都市経営係長

地域と協議を進めているが、小さくても集会施設がほしいという声や今と同じ規模でほしいという声もある。耐震化が課題であり、耐震診断の実施を検討している。

委員

耐震診断はいつ頃実施する予定なのか。

佐藤都市経営課長補佐兼都市経営係長

現在見積を徴収している。内部協議後、地域に説明していく。

委員

地域活動から離れていく現状がある。町としての働きかけや取組はあるのか。

西田魅力創造課長

個別の町内会の規模や環境が違うことから、一律には難しいが相談があれば個別に対応している。新たな事例があれば町内会連合会と共有しながら進めているところである。

グループ長

評価に移る。担当課評価C、経営戦略会議評価Cについて妥当であると思うか。

(妥当：7人、妥当でない：C評価2人)

妥当でない(C評価)とした理由を伺いたい。

委員

成果指標①はまちづくりに重要な分野であり、ここまで上がっているのであれば前進かと思う。町民活動支援センターの活動も活発であり、評価した。

委員

成果指標①が顕著に増えている。若い世代の参加が増えているところが長期的にみて大事だと思う。担当課の働きかけが参加が増えている結果で現れたと評価する。まちなかのイベントにもいろんな方が参加しているように思う。

グループ長

他の委員で妥当とした理由を伺いたい。

委員

Dとしたが、限りなくCに近い。ファシリテーターの活動機会も増えてきている。ただ、町内会活動の課題は根強くあると考えてDとした。

委員

一定の部分は前進したと思うが。地域の集会施設で農村部はだいたい整備されたが市街地は進んでいない。資材高騰などでスケジュールを延伸していくことは良いとは思わない。地域の要望もあることからしっかり進めるべきと思う。

委員

個々の地域活動は活発。町内会活動の課題は大きいと感じている。そこを変えていかないといけない。

グループ長

今後の取組に対する意見はあるか。

委員

町内会はまちづくりには大切な組織。役場職員で非加入者もいる。町内会に関して行政全体が一人一人が意識する必要がある。町長と話し合う機会が増えたが、職員と町内会の話はできてないと思う。町内会は任意団体なので強制できないこともあるが、パートナシップを締結しているので、政策的に踏み込んで進める必要があるのではないかと一緒に作っていくということを打ち立てたほうがいい。

委員

町内会入会で特典サービスがあれば良いのではないかと。町内会に興味を持ってもらうきっかけになれば良い。また、自ら役員をやりたくなる特典もあれば良い。

委員

役場は転入者に対して積極的に案内していない。

西田魅力創造課長

転入者に対して情報提供はしている。ただ、一つ一つを説明するわけではない。

委員

住民自治や地域活動を行う上で、楽しくないといけないと思う。町内会役員も輪番制で、役員になるタイミングで抜けていく人が多い。町内会活動も楽しくないと維持できない。町内でイベントを開催する人もこれをやったら楽しいんじゃないかという思いがある。楽しくできる発想が大事だと考える。東めむろの町内会は3つ連携して夏祭りをおこなっている。成功事例になると良い。実行委員会も子どもの笑顔があるならやれると思う。

西田魅力創造課長

「参加すると楽しいですよ」というのを単位町内会、町内会連合会、行政と連携・協議しながら進めていきたい。

◎ 5 - 2 - 1 効果的・効率的な行政運営

事務局

担当課評価、経営戦略会議評価について説明。

グループ長

事前質問は別紙のとおり。追加の質問やその他の質問があれば伺う。

委員

職員アンケートの回答率を伺いたい。

剣持総務課長補佐兼行政経営係長

数字を持ち合わせていないが、高いことは確かである。

※後日回答

2023年度職員アンケート回答率は80%

委員

DXは進めていくことの課題が大きいと思う。国の施策は理想が高く、現場は四苦八苦していると聞く。人材育成が必要。専門のDX職員を雇う必要があるのではないかと。若い人を育てるとしているが3年というのは若い現場の職員の負担が増えると思う。どうだろうか。委託も可能だが、具体的な方策はどのようなものなのか。

日下政策推進課参事

DX推進ビジョンの計画期間は、総合計画を実現するための下支えというところで、後期実施計画期間に合わせた令和8年度までの3年としている。DXはデジタルありきではなく、業務改善効率化を組織の文化として定着させたい。DXを先導できる職員は、職員みんながそうならないといけないという認識で進める。ただ、デジタルの専門家は今後必要となる。

DXの出発点として、1係1DXを進める。この係のできるのであれば、違う係でもできるのではないかと、情報を共有して進めていく。業務改善を進めていく中で、デジタルは戦略的に活用しなくてはならないと思っている。

委員

デジタル化で気になるのは情報漏えい。

日下政策推進課参事

DX以前からセキュリティ対策は実施している。人為的なミスは絶対に避けたいところ。デジタルの専門家や業者と連携して対策していく。

委員

万全の対策をお願いしたい。

グループ長

評価に移る。担当課評価C、経営戦略会議評価Cについて妥当であると思うか。

(全委員妥当)

妥当とする理由を伺いたい。

委員

成果指標は向上している。

グループ長

今後の取組に対する意見はあるか。

委員

公共施設管理面積について、コミセンの活用は運用や体制づくりを住民と一緒に進めてほしい。もっと活用できるように考えてほしい。

委員

DXビジョンの広域化のデジタルについて、1市3町で効率化のメリットは？

日下政策推進課参事

同じ生活圏で同じサービスができればと考えている。例えば災害がおきた場合など市町村界を越えて情報提供等の協力をしたい。構想は10年後を目指しているが、スモールスタートとしてできることから進めていく。

委員

分野ごとに広域化するということか。

日下政策推進課参事

連携できることからやっていく。防災、福祉医療の連携ができれば良い。

委員

自治体ごとにあるサービスの後退にならないか。

日下政策推進課参事

情報共有や事務手続きを共有するのであって、サービスを共有するわけではない。

■ 3 その他

グループ長

以上で本日の調査事項が全て終了した。今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

次回の専門部会の日程、委員報酬、事後アンケートについて説明。

グループ長

今の説明に関して何か質問や意見はあるか。

(質問なし)

■ 4 閉会

それでは、これで本日の専門部会を終了する。

20:50